

決 裁	議 長	局 長	参 事	

受付

報 告 書

平成 2 7 年 月 日

湯前議会議長 山下 力 様

湯前町議会議員

議員派遣として参加（出席）した研修（会議）の内容（結果）は、次のとおりでありました。

期 間	平成 2 7 年 2 月 2 5 日（水）
場 所	須恵文化ホール
目 的	平成 2 6 年度球磨郡町村議会議員研修会

報 告 の 内 容	◆研修概要
	<ul style="list-style-type: none"> ・講師： 日本総合研究所 調査部 主席研究員 藻谷浩介氏 研究・専門分野： まちづくり、観光振興、産業振興、人口成熟問題 ・演題： 「今こそ里山資本主義、人吉球磨の未来に向けて」
	

◆研修内容

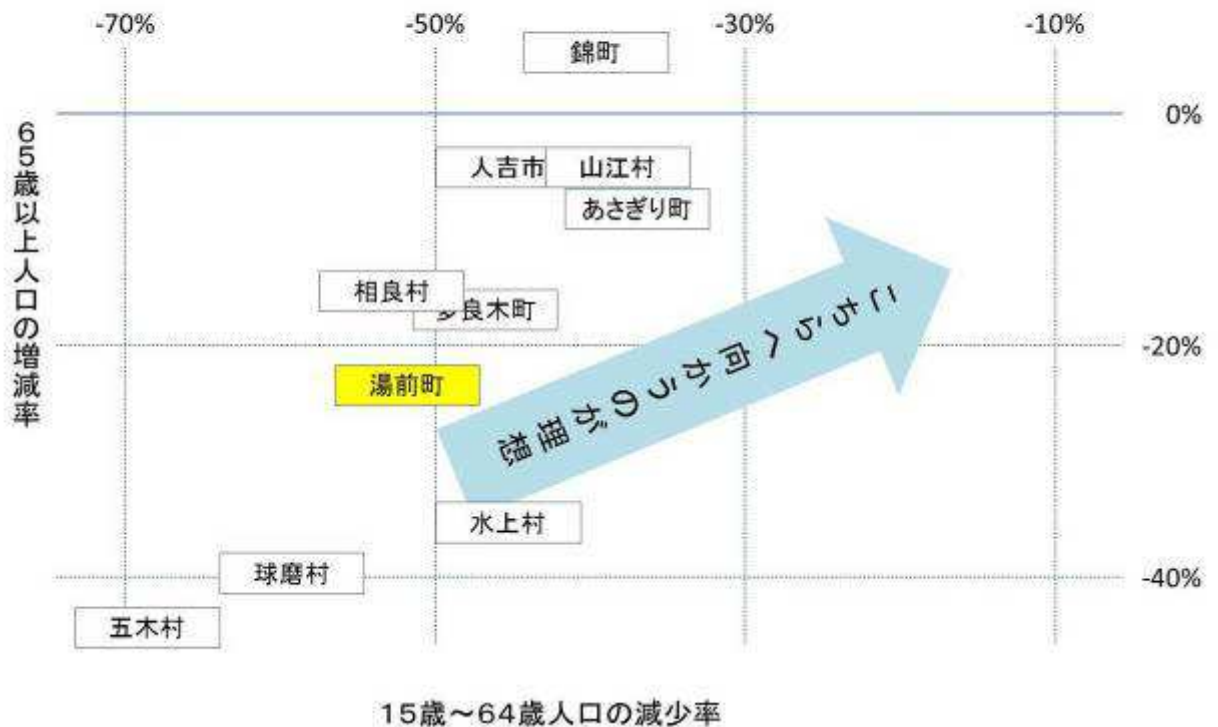
1. 人口減少と田舎の可能性

- 全部の世代が減り始める人吉球磨。
約50年で子供がいなくなる。このままでは100年もたない。
地域をお客様にしている人は厳しい。
<2010年～2020年の人口推移>

0歳～14歳の人口	13.1千人	→	10.3千人	(-21%)
15歳～64歳の人口	52.1千人	→	41.3千人	(-21%)
65歳以上の人口	29.5千人	→	31.7千人	(+7%)
- 熊本市、福岡市、東京都、中国などは、これから高齢者人口が増加し、現役世代は減少する。
今、人口が増えているから大丈夫だと勘違いしている。
熊本市は、税収が約100年しかもたない。
東京は、福祉施設と病院しか増えていない。消費は減少している。
東京の高齢者はマンション住まいが多く、田舎ほど体力を使わない。
東京は、人が人らしく暮らせる場所になっていない。田舎のほうがまともな暮らしをしている
都市部は、これから田舎の高齢化社会がやってくる。
- 今後、高齢者の増加が一段落し、少子化対策などに取り組める田舎のほうが、都市部よりも生活水準が高くなる。
都市部よりも田舎のほうが生き残れる。
- お金で人は増えない。
赤ちゃんだけを増やすのは無意味。
長野県下條村は、子育て支援を最初に取り組み、人口安定を実現した。
高齢者の増加率は低いので、その分を少子化対策に回せる。
人吉球磨は、下條村に比べて、高速道路や鉄道、鹿児島空港などの交通アクセスがよい。
- 「地方創生」という表現は、自民党ではなくマスコミが引き起こしたもの。
地方創生は、日本を救うために地方に人を戻すための政策。
地方を救うためではない。
- 田舎に住もうという人が、ここ5年で急増する。

現役世代の減少と高齢者の増加(2010年～2040年)

※藻谷浩介先生 発表資料より引用

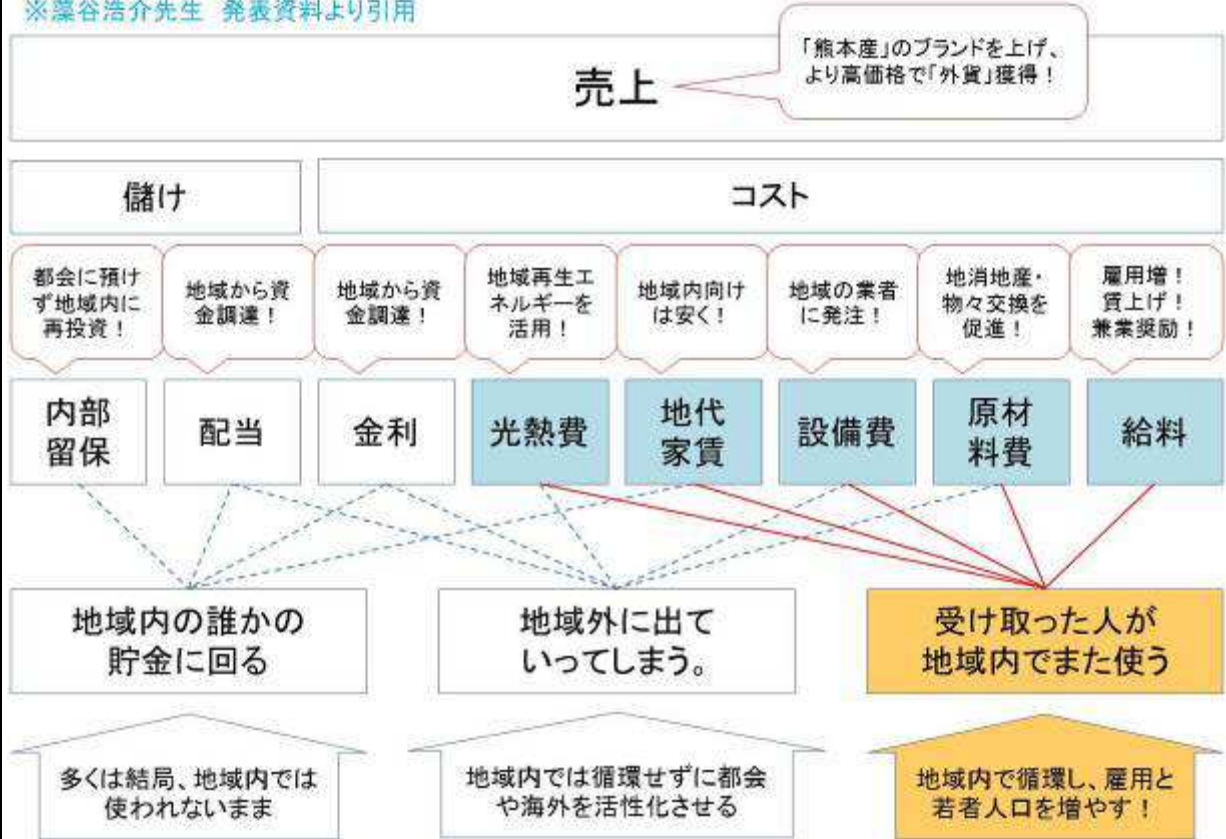


2. お金の使い方次第で地域が変わる！

- ・お金を稼ぐことよりも、使うことを考えたほうがよい。
- ・上勝町は、葉っぱで成功したように見えるが、人口増加に繋がっていない。
- ・稼いだお金を貯金したため、お金が地域に流通していない。お金持ちは貯金をする。
- ・直売所で売上が上がっても、お金を使わないと意味がない。
- ・自動車だけでなく、地域の交通機関を利用する。
- ・株価が上がっても消費は増えない。
- ・若くてお金がない人や、母子家庭・子育て世帯の消費を喚起したほうがよい。
「人吉球磨で暮らして良かった」といえる地域をつくること。
- ・最低賃金を上げるしくみが必要。
若者人口をゆっくり増やしていく。
- ・人吉球磨住民1人当たりの年間モノ消費は80万円程度。
その1%（8千円）を地域内産の消費にすれば、プラス7億円が地元経済に回る。
給与+福利厚生が350万円/人の雇用を200人分増やせる。
- ・人吉球磨住民1人当たりの年間エネルギー支出を40万円とすると・・・
その1%（4千円）を省エネすれば、プラス3.5億円が地元経済に回る。
給与+福利厚生が350万円/人の雇用を100人分増やせる。

お金の使い方次第で地域が変わるイメージ

※ 藻谷浩介先生 発表資料より引用



【感想】

湯前町は、「人口の減少数と減少率」や「ここ数年の政策」を見る限り、人口減少問題への対応が不十分である。

私は、この問題を解決するために議員になったといっても過言ではない。

これまでも、地場産業力の強化、農業支援、後継者対策、住宅政策、U・Iターンの推進等、まちづくりに関する様々な提案をしてきた。

これからも、一般質問等で住民意見を取り入れた提案をしていくので、執行部においては、危機感をもって迅速に対応していただくことを期待する。

里山資本主義にもあるように、地域でお金を循環するしくみを早急に取り組まなければならないと強く感じた。